

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築法規	川喜田 浩也	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	建築物を設計・施工に必要な不可欠となる、法令用語の読み方、用語の定義、条文の主旨・内容の習得のため、建築基準法を中心に説明する。					
到達目標	建築基準法の基本用語を理解する。規制ごとに関係する条項をおおむね把握する。 建築基準法の規制等の内容を参考文献も利用しながら、自力で読み取りできるようにする。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、法文読解の基本ルール等					
2	用語の定義（法第 2 条）					
3	道路、用途地域（法第 42 条、第 48 条）					
4	容積率、建蔽率（法第 52 条、第 53 条）					
5	高さ制限その 1 道路斜線、隣地斜線、北側斜線（法第 56 条）					
6	高さ制限その 2 天空率、日影規制（法第 56 条、同第 56 条の 2）理解度確認レポート課題提示（1 回目）					
7	耐火防火規制（法第 22 条、第 26 条他）					
8	耐火防火区画（法第 27 条、第 61 条他）					
9	避難規定（法第 35 条他） 理解度確認レポート課題提示（2 回目）					
10	開口部関係 採光、換気、排煙（法第 28 条他）					
11	構造耐力その 1 概要・定義・構造計算（法第 20 条関係）					
12	構造耐力その 2 仕様規定（法第 20 条関係） 理解度確認レポート課題提示（3 回目）					
13	建築確認申請（法第 6 条関係 他）					
14	建築士法、建設業法、その他の建築関連法令概説					
15	おさらい、2025 年法改正について					
予習内容 復習内容	予習：副テキスト等により、規制の概要理解と併せ、法令の関連条項を把握する。 復習：講義ごとのメモを再読のうえ、法令関連規定の内容を照合理解する。					
教科書	建築士試験に持ち込み可能な建築基準法令集（できれば最新年度が望ましい。） サブテキスト：建築法規用教材（2024）					
成績評価	理解度確認レポート 55%（1 回目 15%、2 回目 10%、3 回目 30%）出席・受講姿勢 45%の配分により評価。欠席 6 回以上の場合、理解度確認レポート未提出の場合は共に成績評価対象外とします。					
実務経験	行政での建築主事、指定確認検査機関での確認検査員として建築法令実務に携わった経験をもとに、建築基準法について説明をします。					
その他 特記事項	講義をとおして建築基準法令について親しみやすく学んでもらいたい。（私的な希望です。）					